

いふも鍾延とてその版に依る小鍾なるも兼山を山城  
 蘇光公の山下知よ文臣の所役者といふ山形おはつはるる鐘  
 しんた鍾あちかしき門ありく大かき我依る木の家の  
 昔か跡より山形お仕侍しけるまじかり　物より大なる義光  
 威勢通大いありありとて　素案と推察素説するもの  
 といひしうらなとせりる　蘇光公いけ申する鍾あちといふ年  
 拾遺果の恙あらぬ責なりともあり　今より大略を  
 卒一　わさけふ兼山を蘇光のまこと敬火一外にこれ  
 そく次ハ野陳と云ふもねと日東のよ押方義光自云ふ  
 兼山を蘇光のまじき山ありける城の跡を見分かつるふといふハ

瀬<sup>が</sup>くしとびえり山山をせ便かり一方は鉦川といふ大河也  
 地の利全き城ありてありふあけなりとて鉦川一方と雖も  
 明く三方より敵と振山の嶽と堀切柵と有用の處を據く  
 城中の玄糧をありとけあふ別藏と云ふ向城より油して  
 鉦延のときとあてせありて天無難はけり六衛府時をよ  
 ああおれぬえは城は井きりありていふもろきとありて  
 夜かく思ひかたきこのろを過りていふと知り合せり  
 ちきりといふと依を右に色水汲ふあたるといふ人  
 ちあけ捕りて鉦あちの家をたふあちりといひあちの城を  
 ちあけ捕りてちあちの城をたふあちりといひあちの城を